

Ⅳ ヒアリング調査からみた経営動向

1 製造業

(1) 一般機械器具

【業界の動向】

県内の一般機械の生産指数（埼玉県鉱工業指数月報による季節調整済指数。以下同じ。）は、直近の平成30年6月で、はん用機械工業が154.1（前月比0.4%減少、前年同月比1.4%増加）、生産用機械工業が94.0（前月比36.5%減少、前年同月比29.2%増加）、業務用機械工業が68.6（前月比9.1%増加、前年同月比51.0%減少）であった。

【景況感】

- ・受注状況からみて好況であると感じている

【売上げ】

- ・受注体制はフル稼働の状態
- ・主要部門でのOEM先からの受注量は依然として多い

【品目別の状況】

- ・インフルエンザ予防薬が増産体制に入っており、金型の受注が大幅に増えている

【受注単価】

- ・原材料費の増加分を一部価格転嫁できている
- ・新規受注についてはコストを反映させた単価設定が相応にできている
- ・付加価値の高い製品については受注単価を上げている

【原材料価格】

- ・鋼材を中心に2～3%上がった
- ・仕入れルートを変えて仕入価格の低減に努めており、原材料価格は変わっていない

【採算性】

- ・豊富な受注によって生産体制の効率向上が図られており、良くなってきている
- ・付加価値のある商品が多く生産できており、採算性は上がっている
- ・従業員を増やしたが、新規の従業員が直ちに生産体制に寄与しないため、人件費増加の分だけ収益が下がった

【設備投資】

- ・生産体制の効率化のための設備投資を行った

【今後の見通し】

- ・当面の受注は高水準で推移することが見込まれ、良い方向に向かうとみている

(2) 輸送用機械器具

【業界の動向】

県内の輸送用機械の生産指数は、直近の平成30年6月に84.7%となり、前月比で2.3%減少、前年同月比でも3.5%の減少となった。

【景況感】

- ・業界としてはプラス5%程度のイメージである
- ・EV化関連の引き合いが多い
- ・業界の中小企業が減っている印象があり、廃業した同業者の仕事が回ってくる
- ・忙しい企業とそうでない企業の二極化が進んでいる印象がある

【売上げ】

- ・自動車関連は好調である
- ・海外向けの産業用車両関連の仕事が増えている

【受注単価】

- ・原材料高の影響で上昇傾向
- ・採算が取れない仕事は受けないようにしている

- ・元請企業からの定期的なコストダウン要請があるが、原材料高により飲み込めないで、ロット見直しなどの条件を付けている

【原材料価格】

- ・金属が全般的に上昇している
- ・在庫も減少し、品薄感がある

【採算性】

- ・新規受注案件の生産立ち上げ経費が増加し、悪化した
- ・売上増に伴い採算性は良くなった
- ・ほとんど変わらないが、採算の視点で仕事の選別を進めている

【設備投資】

- ・旧式設備の更新を実施した
- ・新規受注への対応のため、新しい設備を導入した
- ・できるだけ設備投資はしないようにしている

【今後の見通し】

- ・自動車関連は順調に推移する見込みである
- ・ディーゼル乗用車関連の売上げは欧州向けで微減、アジア向けは増加見込みである
- ・産業用機械向けの受注が増え、今後伸びる見込みである

(3) 電気機械器具

【業界の動向】

県内の電気機械の生産指数は、直近の平成30年6月に90.3となり、前月比で9.3%減少、前年同月比でも17.7%の減少となった。

【景況感】

- ・市場が世界規模になってきて、世界が競争相手である。景況感はあまりよくないと感じる
- ・大手は景気が良いようだが、中小企業は厳しい
- ・米中の貿易摩擦の影響は今のところ感じない。好況と普通の間である

【売上げ】

- ・海外関係の売上げが増えている
- ・売上げがあるも利益が出ない。仕事はあるが人がいないため断っている状況
- ・増えた。10月から量産化する仕事があり、今後も増える見込み

【受注単価】

- ・コストダウン要請が減った
- ・6月に赤字だったものを価格交渉で上げてもらった。価格交渉は決死の覚悟が必要

【人件費】

- ・中途採用が多いため、増えた
- ・最低賃金改定のため、増えた。中小企業には厳しい
- ・ほとんど変わらない

【採算性】

- ・現状維持が続いている
- ・人件費がかさむため利益が出ない。価格交渉はしているが製品価格に転嫁できていない
- ・一番の柱である事業の売上げが減ったが利益は上がった。効率化ができています

【設備投資】

- ・国内事業所は当分ないだろう
- ・クーラー買い換え、照明の付替え(LED照明へ)

【今後の見通し】

- ・海外製品が増えている。見通しはどちらともいえない
- ・業界内でも伸びる分野とそうでない分野がある。勝ち組、負け組になるのは客先次第ではないか

(4) 金属製品

【業界の動向】

県内の金属製品の生産指数は、直近の平成30年6月に80.8となり、前月比で3.5%減少、前年同月比では1.4%の減少となった。

【景況感】

- ・業界問わず受注が好調な状況である
- ・受注が一段落したこともあって普通であると感じている

【売上げ】

- ・依然としてフル生産の体制が続いている

【品目別の状況】

- ・自動車関連や半導体関連は相変わらず好調

【受注単価】

- ・一部上げることができたが、全体的には同水準
- ・現状では原材料費の上昇分を受注単価に転嫁できていない

【原材料価格】

- ・四半期の3か月間で、鉄関連が9%程度、アルミが10%程度、ステンレスが5%程度上がっている

【採算性】

- ・原材料価格は上がっているものの、受注増による生産性の向上により採算性は前期並み
- ・原材料価格は上がっているものの、経費削減でカバーしている

【設備投資】

- ・生産性向上のためのライン増設に係る設備投資が進行中

【今後の見通し】

- ・当面、現状維持の見込みであり、良い方向に向かうとみている
- ・良い事象と悪い事象があることからどちらともいえない

(5) プラスチック製品

【業界の動向】

県内のプラスチック製品の生産指数は、直近の平成30年6月に75.6%となり、前月比で8.1%減少、前年同月比では6.2%減少となっている。

【景況感】

- ・業界内における廃業や休業などの話は聞かない
- ・どの企業も多忙な様子ではあるが、良い企業と悪い企業の二分化が進んでいる

【売上高】

- ・医療、食品、自動車、鉄道、建築、物流、小売業関連向けはいずれも好調である
- ・半導体関連が落ち着いてきた感じがある

【受注単価】

- ・原材料価格の上昇分を単価に反映してもらっているため受注単価は上がっている
- ・現在元請企業に対して単価見直しの交渉を行っている

【人件費】

- ・新規採用者分の増加やパート時給の上昇、残業代の増加により増加している

【採算性】

- ・好調な受注により外注費が増加した
- ・原材料費の上昇により採算性が悪化した

【設備投資】

- ・国庫補助金を活用して設備投資を実施した

【今後の見通し】

- ・年内の業界動向に大きな変化はない見込み
- ・引き続き景況は良い見込み

(6) 食料品製造

【業界の動向】

県内の食料品工業の生産指数は、直近の平成30年6月に112.8となり前月比で1.6%減少、前年同月比では12.9%増加となった。

【景況感】

- ・受注状況からみて好況であるといえる
- ・売上高増加の一方で原材料価格や諸経費の高騰があり、景況感は普通だが、悪くはない

【売上げ】

- ・OEM受注が依然として好調
- ・新規取引先の増加に加え、猛暑の影響で冷やし中華の材料の出荷量が増えている

【製品単価】

- ・特段変わらずに推移している

【人件費】

- ・前期引き上げた水準を維持している

【採算性】

- ・受注増による生産効率の向上によって、経費増をカバーし、採算性は向上している
- ・利幅の取れる商品が前年同期比で多く出たため採算性は上がっている

【設備投資】

- ・高付加価値の製品を製造できる機械を導入した

【今後の見通し】

- ・主要原料の価格が落ち着いてくれば、良い方向に向かうとみている

(7) 銑鉄鋳物

【景況感】

- ・鋳物産業は事業所が絞られており、仕事量が多い。発注業界も概ね良好であるようだ

【売上げ】

- ・固定客中心であり、安定している。強いて言えば、半導体基板関連の仕事が若干減少した
- ・「高水準」で維持している。仕事が多い中、猛暑で能率を落とすわけにいかず、対応が大変だった

【受注単価】

- ・取引価格に若干、運送コスト上昇分を上乗せできた
- ・コストの増加があっても価格対応できると考えている
- ・若干、電気等、コスト増加要因があると感じている。価格転嫁ができれば受注単価は上がる

【原材料価格】

- ・スクラップが若干上がっている。業者からは猛暑の影響で作業効率が落ちたことが要因のひとつと聞いている。なお、銅は若干下がっている
- ・トランプ大統領の動向等、国際情勢が気になる
- ・銑鉄等の直接的な原料は横ばいではないか。副資材が外国情勢に影響され、上がるとみている

【今後の見通し】

- ・取引先の景況からみて、少なくとも悪い方向に向かうことはないと考えている
- ・良い方向に向かうか否かはわからないが、年内はこの状況が続くのではないかと

(8) 印刷業

【業界の動向】

県内の印刷業の生産指数は、直近の平成30年6月は90.9となり前月比で3.2%増加、前年同月比では横ばいとなった。

【景況感】

- ・依然としてペーパーレス化の煽りを受けている
- ・不況である。現在好調であっても競合の参入で価格勝負になってしまう
- ・元々閑散期であるが、その中でも厳しい気がする

【売上げ】

- ・去年は同時期に特需があったため今期は厳しい
- ・価格勝負で取ってきた単純な仕事は他社に流れて売上げがとれない
- ・長年の付き合いで、大手の新規や改装の仕事が入ってくる

【受注単価】

- ・材料も支給される場合が増え、受注単価が下がる傾向がある
- ・製版代の価格を見直し、値上げを行った
- ・一件あたりの受注単価が上がっているわけではないが、収益性の悪い仕事は断るようになり、トータルとして受注単価が上がった

【原材料価格】

- ・紙メーカーは値上げしたいようだが、業界として売上げが厳しい中、上げるに上げられないのではないか
- ・メーカーによって価格差がある

【採算性】

- ・収益性の悪い仕事は断ることもあり、粗利はほとんど変わらない
- ・設備ごとに原価計算を行い、不採算事業はやめることにした

【設備投資】

- ・機械に比べてソフト関係は耐用年数やメーカー保証が短い、セキュリティ上更新せざるを得ない
- ・メインの印刷機の取扱いメーカーが増え、選択肢が増えた

【今後の見通し】

- ・雑貨等新製品関係の仕事も入ってくるので、良い方向に向かうと思いたい

2 小売業

(1) 百貨店

【業界の動向】

商業動態統計によると、県内百貨店の平成30年6月の販売額は、既存店ベースで前年同月比0.7%の減少となり、7か月連続で前年同月を下回った。

【景況感】

- ・この猛暑でPRは増えたが、景況感はよくないと思う
- ・猛暑はあったが悪くないと思う
- ・都心店は好況であるが、郊外店は苦戦している

【売上げ】

- ・夏のクリアランスは告知不足や天候不順で不調であった
- ・猛暑の影響で機能性の高いものや日傘、帽子、サングラスが好調であった
- ・猛暑で高齢者の来店が少なくなり、売上げが下がった

【諸経費】

- ・人件費や広告宣伝費は縮小している
- ・猛暑で、空調使用のため電気代が膨らんだ

【採算性】

- ・郊外の既存店は苦戦している
- ・傾向としてはほとんど変わらない

【今後の見通し】

- ・企画等で集客を図っているが、微減傾向が続き、あまり見通しはよくない
- ・高額な冬物商品は、消費増税を見据えて購買意欲が高まるのではないか
- ・良い物には、お客様もお金を出すので、良い方向に向かうと考えている

(2) スーパー

【業界の動向】

商業動態統計によると、県内スーパーの平成30年6月の販売額は、既存店ベースで前年同月比1.2%の増加となった。全店ベースでも前年同月比2.5%の増加となり、3か月に改善した。

【景況感】

- ・客は必要なものだけを購入し、無駄遣いしない。景況感は普通である
- ・不況である。大手スーパーが出店を加速しているため、小規模スーパーはつぶされ、大手は出店数が多い分で売上げが伸びている
- ・悪いほうの普通。どこも伸び悩んでいるのではないか

【売上げ】

- ・増えた。カジュアル婦人服や惣菜の売上げが良かった
- ・増えた。果物、米、パンの売上げが好調
- ・飲料、アイス、麺類、めんつゆ、ドレッシングがよく売れた。乾麺は例年以上の売れ行きだった

【諸費用】

- ・電気代、ガス代(空調用)が増えた。単価上昇の影響あり
- ・人件費増。パートは賃金が上昇したが社員は据え置いた

【採算性】

- ・良くなった
- ・良くなった。社員が辞めたため、人件費が昨年よりも減ったため
- ・良くはならない。売上げは変わらないが人件費増のため

【今後の見通し】

- ・競争激化で勝ち組と負け組に分かれる。小規模のスーパーは厳しいと思う
- ・どちらともいえない
- ・今まで埼玉になかったスーパーが出店してきている。どちらともいえない

(3) 商店街

【業界の動向】

平成30年8月の月例経済報告は、個人消費について「個人消費は、持ち直している。実質総雇用者所得は緩やかに増加している。また、消費者マインドはこのところ弱含んでいる。」と総括している。

【景況感】

- ・少し前に底打ちから良くなっていると思ったが、そうでもない
- ・7月はこの猛暑で不況ではないか
- ・よくなっているとは感じない

【来街者】

- ・今年の異常な猛暑により、来街者も少なく感じる。市内の他の商店街を通っても同様に感じる
- ・アニメファンの来街者もまずまずだが、もっと足元を見直さなくては、商店街はよくなる
- ・お祭りなどのイベントも、猛暑の影響で集客が少なく、滞在時間も短かった

【個店の状況】

- ・現場作業員の猛暑対策にコストをかけた。どの店舗もエアコンの電気代はかかり、売上げは増えないが、出費は増えている
- ・観光客が入る店舗はよいが、物販店は苦戦している
- ・最近では1階の空き店舗が少なく、希望者はいても対応できない

【商店街としての取組】

- ・夏祭りに商店街組合として参加していたが、今年は自分の店の利益につながればと各店の対応とした
- ・恒例の夏祭りを開催し、本商店街の特色である、大型店と商店街の連携事業となった
- ・他市とクラウドファンディングを活用して、新規事業を立ち上げた

【今後の課題等】

- ・飲食店は、夜の活動がメインで日中の商店街イベントに参加できないとの理由から、組合加入を拒否する店舗も多い
- ・イベントの運営にお金がかかるため補助金の補助率を上げてほしい
- ・大多数は店舗物件のみの賃貸で居住地は別のため、地元志向があまりない

【今後の見通し】

- ・どちらともいえない
- ・総裁選の行方によっては、また商店街への補助金施策などあるのではないかと懸念材料もあり、よくなる見込みがあまりないと思う

3 情報サービス業

【業界の動向】

特定サービス産業動態統計によると、情報サービス業の売上高は、直近の平成30年6月は前年同月比2.3%の増加となり、2か月連続で増加した。

【景況感】

- ・普通である。人手不足ではあるが引き合いはない
- ・仕事はたくさんあるので、景気はよいと思う

【売上げ】

- ・ほとんど変わらない
- ・増えた。景気が良くなってきたため、ソフトウェアに投資する会社が増えた
- ・深耕拡大により、少しずつ増えている。既存の客の他部署、グループ会社など

【製品価格】

- ・ほとんど変わらない
- ・常駐スタッフで、成果を上げた人は単価が上がる

【人件費】

- ・社会保険料と産業医に対する支払が増えた
- ・雇用形態を問わず、増えた

【設備投資】

- ・事務所移転に伴う引っ越し費用

【採算性】

- ・ほとんど変わらない

【今後の見通し】

- ・国内公共事業とインバウンドで引っ張っているが、オリンピック後どうなるか分からない
- ・9月に自民党総裁選がある。選ばれた首相によって景気が左右される

4 サービス業

【景況感】

- ・旅行申込の状況からみて好況であると感じている

【売上げ】

- ・バス旅行は、最低料金の引き上げで客足が鈍かったが、ここにきて回復しており、前期比で売上高は増えている

【受注価格】

- ・若干であるが上げることができている

【採算性】

- ・旅行申込者数の増加によって採算性は若干であるが良くなっている

【設備投資】

- ・エアコンの改修を行った

【今後の見通し】

- ・旅行申込は増える見込みであり、良い方向に向かうとみている

5 建設業

【業界の動向】

「建設総合統計（出来高ベース）（国土交通省）」における埼玉県の様況は、直近の平成30年6月で1,702億円、前月比4.6%増加、前年同月比6.2%増加となった。

【景況感】

- ・景況感については悪くないと感じている

【受注高】

- ・年間の受注量は前期とほぼ同じ状況

【受注価格】

- ・受注単価については前年同期比で変わらない

【資材価格】

- ・鉄筋が20%、生コンが5%上昇している
- ・受注契約締結後の資材価格の高騰に苦慮している

【採算性】

- ・資材価格高騰分だけ採算性は悪くなっている
- ・経費削減効果がでて収益性は向上した

【設備投資】

- ・特筆すべき設備投資は行わなかった

【今後の見通し】

- ・受注状況からみて良い方向に向かうとみている
- ・どちらともいえない